



2026年5月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2025年10月15日

上場会社名 株式会社パシフィックネット 上場取引所 東
 コード番号 3021 URL <https://www.prins.co.jp/>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 上田 雄太
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役 (氏名) 杉 研也 (TEL) 03-5730-1441 (代表)
 配当支払開始予定日 —
 決算補足説明資料作成の有無 : 有
 決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2026年5月期第1四半期の連結業績(2025年6月1日~2025年8月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2026年5月期第1四半期	2,382	31.5	322	128.5	304	138.4	205	140.6
2025年5月期第1四半期	1,811	17.8	141	34.4	127	30.8	85	38.2

(注) 包括利益 2026年5月期第1四半期 205百万円(140.6%) 2025年5月期第1四半期 85百万円(38.2%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2026年5月期第1四半期	39.02	38.96
2025年5月期第1四半期	16.22	16.20

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2026年5月期第1四半期	13,583	3,331	24.5
2025年5月期	12,364	3,378	27.3

(参考) 自己資本 2026年5月期第1四半期 3,330百万円 2025年5月期 3,378百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2025年5月期	—	0.00	—	48.00	48.00
2026年5月期	—	—	—	—	—
2026年5月期(予想)	—	0.00	—	52.00	52.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2026年5月期の連結業績予想(2025年6月1日~2026年5月31日)

(%表示は、通期は対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	9,700	19.8	1,000	18.7	900	16.2	609	15.0	115.89

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における連結範囲の重要な変更 : 無
 新規 ー社(社名)ー 、除外 ー社(社名)ー

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

② ①以外の会計方針の変更 : 無

③ 会計上の見積りの変更 : 無

④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)

2026年5月期1Q	5,392,500株	2025年5月期	5,392,500株
------------	------------	----------	------------

② 期末自己株式数

2026年5月期1Q	137,313株	2025年5月期	137,313株
------------	----------	----------	----------

③ 期中平均株式数(四半期累計)

2026年5月期1Q	5,255,187株	2025年5月期1Q	5,253,049株
------------	------------	------------	------------

※ 添付される四半期連結財務諸表に対する公認会計士又は監査法人によるレビュー : 無

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料7ページ「1.当四半期決算に関する定性的情報 (3)連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	7
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	7
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	8
(1) 四半期連結貸借対照表	8
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	10
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	12
(継続企業の前提に関する注記)	12
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	12
(セグメント情報等)	12
(キャッシュ・フロー計算書に関する注記)	13
(重要な後発事象)	13

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

① 用語及び当社の事業セグメントのご説明

経営成績の概況の説明において、使用する用語とその内容は以下のとおりです。

用語	内容
L C M	Life Cycle Managementの略。 P C、Wi-Fi、モバイル機器等の導入、運用・管理、使用後のデータ消去・適正処分を管理する仕組み。
サブスクリプション	製品やサービスを購入するのではなく、利用期間や利用量に応じて月額や年額等で代金を支払う方式。 利用者（顧客）は高額な初期費用の負担が軽減され、サービス提供者は利用者（顧客）との継続的な関係構築、持続的な収益確保（ストック収益）が可能となります。
I T機器サブスクリプション (I T機器レンタル)	当社での呼称。法人・官公庁等が業務で使用するP C、Wi-Fi、モバイル機器等のI T機器を、中長期または短期で提供します。 売上高の大部分は故障対応サービス付き3～5年の中長期サブスクリプション（レンタル）です。
サブスクリプション資産 (財務諸表ではレンタル資産)	I T機器サブスクリプション・サービス用の資産 (P C・Wi-Fi・モバイル機器等)
I T A D (読み方：アイタッド)	IT Asset Dispositionの略、I T機器の適正処分の意味。 情報セキュリティ上安全、かつ適法（環境法、国際条約、資源有効利用促進法等）な処分は、コンプライアンス・ガバナンスにおいて経営上の重要事項と位置付けられ、欧米で一般化しています。
ガイドレシーバー (日本旅行業協会での呼称) イヤホンガイド® (当社での商品名・商標)	送信機と複数の受信機からなる、手のひらサイズの音声ガイド用無線機器。観光地ガイドを中心に、騒音の多い工場見学、大きな声を出せない美術館や博物館等、各種ガイド用途で利用されています。 当社グループでは「イヤホンガイド®」という商標で提供し、観光利用では90%以上のシェアを有しています。
B P Oサービス	B P O (Business Process Outsourcing) サービスとは、企業の業務プロセスを外部に委託する仕組みであり、当社ではIT機器の調達からキitting、設置、運用、廃棄までを一括で受託し、顧客の業務効率化とIT運用負荷の軽減を支援しています。
デジタルトランスフォーメーション (略称：D X)	進化したI T技術を活用したビジネスや業務の変革。デジタル化。 例えば、クラウド、5 G（第5世代移動通信システム）、I o T、A I等の最新テクノロジーを新製品やサービス開発、業務変革に活かすこと。

また、当社の事業セグメントと提供サービスは以下のとおりです。

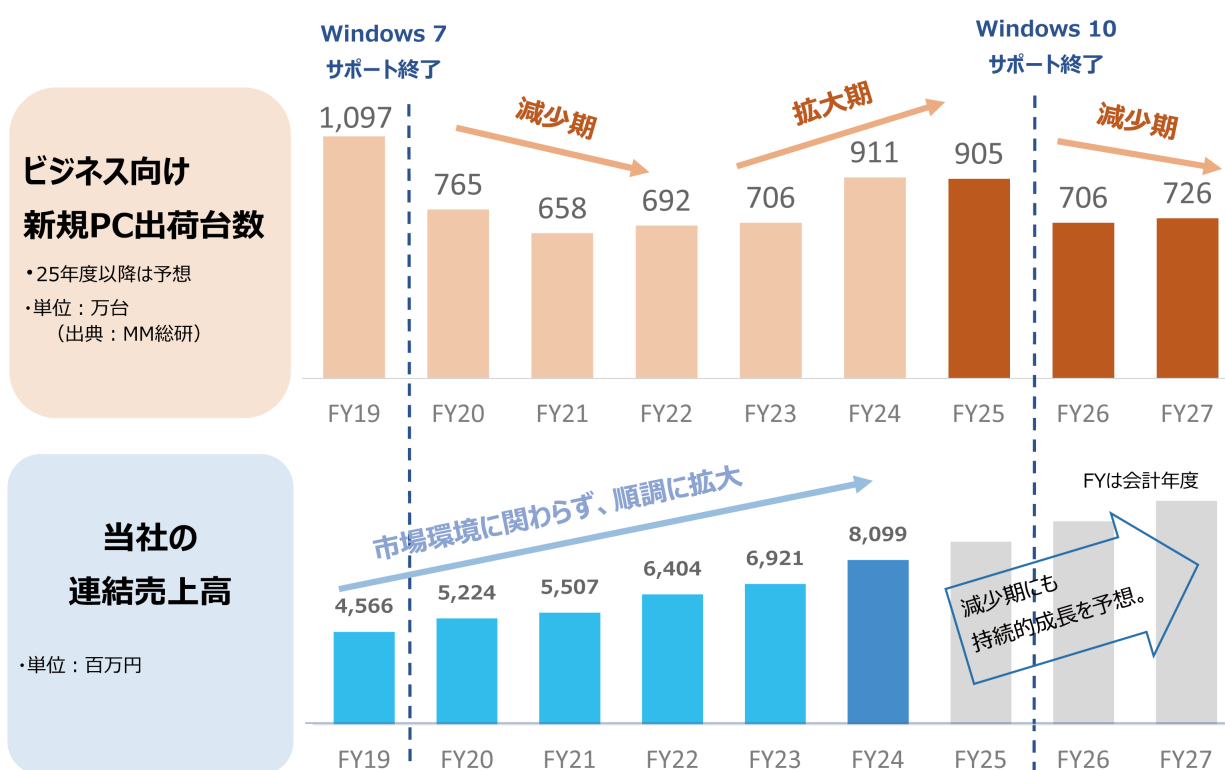
事業セグメント	主なサービス内容
ITサブスクリプション事業 (ストック収益中心)	<p>法人・官公庁が業務で使用するPC等のIT機器サブスクリプション、IT環境の運用保守、ヘルプデスク、クラウド等のITサービスで構成。</p> <p>サブスクリプション型サービスが大部分を占めています。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ IT機器サブスクリプション (中長期レンタル中心) ◆ ITサービス (運用保守、通信、クラウド系ソリューション等)
ITAD事業 (フロー収益)	<p>使用済みIT機器のデータ消去、適正処理サービスです。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ 使用済みIT機器のセキュアな回収、データ消去 ◆ リユース・リサイクル販売 <p>(高価値品はテクニカルセンターで製品化し、リユース販売。リユース困難な機器については分解して素材化し、当社の監査基準を満たすリサイクル業者へ販売し、廃棄物削減と適正処理を推進)</p>
コミュニケーション・デバイス事業 (フロー収益)	<p>イヤホンガイド®関連サービスです。</p> <p>国内の旅行関連市場では当社グループのイヤホンガイド®がガイドリーダーのシェア90%以上を有しています。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ イヤホンガイド®の製造販売、レンタル ◆ イヤホンガイド®の保守・メンテナンスサービス

② 2026年5月期第1四半期(2025年6月～2025年8月)の経営成績

◆事業環境

当社は、ITサブスクリプションを中心としたストック収益拡大に加え、ITAD事業による安定した収益基盤の確立を最も重要な経営課題と位置付け、これらの事業を通じた持続的な成長に取り組んでおります。IT部門の人材不足や業務負荷の増大、PC調達方法としてのサブスクリプションの認知度向上を背景に、LCMサービスを包含したITサブスクリプション、BPOサービスへのニーズが高まっております。また同時に、企業のIT運用におけるセキュリティ強化やガバナンス対応、CO2削減などの環境問題の観点から、データ消去等のITADサービスやリユースのニーズも拡大しております。

2025年10月のWindows 10 サポート終了を直前に控え、OS更新・PC入替需要は高まっております。また、需要のピークを越えた後も企業のIT人材不足は深刻化すると予想され、PC運用管理業務のBPOサービスのニーズも拡大することから、今後も安定した成長を見込んでおります。さらに、こうした社会環境を追い風として、ITサブスクリプション事業とITAD事業のサービスのクロスセルを進めることで、事業セグメント間のシナジーを最大化し、持続的な収益拡大と企業価値の向上を目指してまいります。



・FYとは、会計年度を表す英語の略語で、Financial Year のことです。

FY25年の場合、2025年4月～2026年3月までの期間を指します。(当社は、2025年6月～2026年5月)

この事業環境を踏まえ、以下を重点課題として先行投資等を行っております。

- ①ストック収益の拡大(サブスクリプション型サービスの拡大)
- ②LCMサービスの推進(運用保守管理、ヘルプデスク、データ消去、排出管理BPOサービス、クラウドサービス等)
- ③資産効率・収益性の向上
- ④人的資本経営の推進(人材確保・リスクリング・賃上げ・エンゲージメント向上)
- ⑤成長機会に備えたインフラの整備とDX推進(設備投資・AI活用)

詳細は、2025年10月15日付「2026年5月期第1四半期 決算説明資料」をご参照ください。

◆2026年5月期第1四半期 連結業績について

当第1四半期連結累計期間において、企業のOS更新に伴うPC入替需要の高まりや、IT機器の運用業務の負荷軽減サービスへのニーズが急拡大する中、当社グループは、それぞれの事業における市場機会を確実に捉えることで、すべてのセグメントで大幅な業績向上を実現しました。その結果、売上高および営業利益が、四半期として過去最高となり、売上高は前年同期比31.5%の増収、営業利益は前年同期比128.5%の増益となりました。

セグメント別で見ると、ITサブスクリプション事業は、PC調達手段としてサブスクのニーズが高まっていることから順調に拡大しております。ITAD事業も、OS更新に伴うPC入替需要を追い風に、使用済みPCの入荷台数が増加したことに加え、採算性の高い高品質の使用済みPCの確保とサービス収益の拡大を進めたことで増収・増益となりました。コミュニケーション・デバイス事業は、旅行・観光需要の回復と連動して着実に業績が向上しております。

投資面では、中長期の事業拡大と収益基盤の強化を目的に戦略投資を継続拡大したことで、先行コストが増加いたしました。具体的には、(1) 人的資本への投資(人材の積極採用、賃上げ、従業員のリスクリング)、(2) インフラ投資(システム、セキュリティ、設備、支店の改装)、(3) サブスクリプション資産への投資、(4) DX推進(AIの活用、RPAによる自動化、ノーコードツールの活用)、(5) マーケティング強化(展示会への出展、デジタルマーケティング、営業支援サービスの採用)などです。

また、サービスの利便性と資産稼働率、業務効率の向上を目的に、法人向けレンタルECサイトを開設、当社PCレンタルを利用する企業を対象にリーズナブルな月額で機器のトラブルをサポートする「ワンコインヘルプデスク」のサービス提供を開始しました。連結子会社の株式会社ケンネットにおいては、ユーザーのスマートフォン(アプリケーションのダウンロード不要)で手軽に利用できる新サービス「WEB版イヤホンガイド®」の提供を開始し、サービスの拡充に努めました。

(単位：千円)

当社グループ	第1四半期 連結累計期間	前期比 増減率
連結売上高	2,382,315	31.5%
連結営業利益	322,302	128.5%
連結経常利益	304,739	138.4%
親会社株主に帰属する四半期純利益	205,049	140.6%
E B I T D A (※1)	1,148,817	45.5%

(※1) E B I T D A : キャッシュベースの利益。営業利益+減価償却費で算出

セグメント業績は、次のとおりです。

◆ITサブスクリプション事業（IT機器サブスクリプション、ITサービス）

当事業のサービスは、企業のIT部門の負荷軽減に大きく貢献しており、そのニーズは益々高まっております。特に、ストック売上である長期サブスクリプションが順調に積み上がっていることから、安定的な収益基盤の構築が進んでおります。加えて、当第1四半期連結累計期間においては、選挙関連による短期レンタル需要があったことや、ITサービス、IT機器の販売等も好調に推移し、売上高・セグメント利益共に拡大しました。

長期サブスクリプションの拡大に伴い、サブスクリプション資産（勘定科目：レンタル資産）の保有台数も増加しております。需要期を迎え、調達による資産台数増加やレンタル満了に伴う返却品が一時的に増加したこと、資産の稼働率に若干の影響が出ておりましたが、在庫の最適化を進めたことにより、稼働率は引き続き高水準を維持しております。また、将来の事業拡大を見据えた人的資本への投資やインフラ整備への投資を積極的に実行しておりますが、事業拡大により投資コストを吸収し、利益の進展を実現しております。

（単位：千円）

ITサブスクリプション事業	第1四半期 連結累計期間	前期比 増減率
売上高	1,718,139	29.4%
セグメント利益	225,261	40.3%

◆ITAD事業（使用済みPC等のデータ消去・適正処理サービス）

当事業においては、外部環境の影響を受けにくい安定的な事業構造の実現を目指し、データ消去、引取回収といったサービス収益の拡大を進めております。当社は、以前より使用済みPCからのデータ漏洩の危険性やその対策について、発信・提言してまいりました。その取り組みの成果や今までの実績への評価もあって、企業からの受注が増加しており、これらのサービス売上も順調に拡大しております。

また、当第1四半期連結累計期間においては、OS更新に伴うPC入替需要を想定し、企業へのサービスプロモーションを積極的に展開したことで、使用済みPCの入荷量が想定以上に増加いたしました。加えて、再販価値の高い使用済みPCの確保に努めたことで、リユース販売の収益性が改善し、部門横断で業務オペレーションの効率化を徹底することで、事業全体の生産性が向上し、売上高・セグメント利益ともに前年同期を大きく上回る好業績となりました。

（単位：千円）

ITAD事業	第1四半期 連結累計期間	前期比 増減率
売上高	654,701	46.9%
セグメント利益	275,815	100.8%

◆コミュニケーション・デバイス事業（イヤホンガイド®の製造販売、レンタル、保守メンテナンス）

第1四半期連結累計期間は、旅行・観光業界においてはオフシーズンにあたるものの、旅行業の需要が回復基調で、訪日旅行者向けの案件が堅調に推移したこと、加えて、工場見学などの利用目的で一般の事業法人からの受注も拡大していることなどから、売上高・セグメント利益が前年同期比で増収増益となりました。

また、今後見込まれる繁忙期に向け、生産・出荷体制の更なる整備と運用効率の向上に注力し、需要取り込みと収益性向上の両立を図ってまいります。

（単位：千円）

コミュニケーション・デバイス事業	第1四半期 連結累計期間	前期比 増減率
売上高	68,434	16.0%
セグメント利益	9,044	44.1%

(2) 財政状態に関する説明

当第1四半期連結会計期間の総資産は、13,583,846千円（前連結会計年度末比1,218,985千円増）となりました。

この内、流動資産は2,447,164千円（前連結会計年度末比86,837千円増）となりました。これは、主に現金及び預金が7,758千円減少し、売掛金が8,181千円、商品が7,025千円、その他が79,300千円増加したことによります。

固定資産は11,136,682千円（前連結会計年度末比1,132,147千円増）となりました。これは、主にサブスクリプション資産（勘定科目はレンタル資産(純額)）が1,130,273千円増加したことによります。

負債は10,252,803千円（前連結会計年度末比1,266,184千円増）となりました。

この内、流動負債は4,793,519千円（前連結会計年度末比663,756千円増）となりました。これは、主に買掛金が52,643千円、未払法人税等が72,112千円減少し、短期借入金が280,000千円、1年内返済予定の長期借入金が348,282千円、その他が113,150千円増加したことによります。

固定負債は5,459,283千円（前連結会計年度末比602,427千円増）となりました。これは、主に長期借入金が595,005千円増加したことによります。

純資産は3,331,043千円（前連結会計年度末比47,199千円減）となりました。これは、主に親会社株主に帰属する四半期純利益205,049千円の計上による増加と剰余金の配当252,248千円による減少であります。

また、当第1四半期連結会計期間末における自己資本比率は24.5%（前連結会計年度末は27.3%）で、1株当たり純資産額は633円85銭（前連結会計年度末は642円83銭）であります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

足元では景気減速への懸念も広がっておりますが、当社は景気変動の影響を受けにくいビジネスモデルであることに加え、優良な顧客基盤を有しており、事業活動は堅調に推移しております。

ITサブスクリプション事業においては、LCMサービスを包含するサブスクリプションの需要も高まっていることにより、受注も好調に推移しております。広く企業のニーズにマッチした当事業は、ストック収益を確保していることもあり、安定的に成長するものと予測しております。

ITAD事業においては、OS更新需要から、企業のPC入替が進んでおりますが、入替後の排出までには一定のタイムラグがあるため、2025年10月のWindows 10 サポート終了以降も、当面は良好な市場環境が続くと予測しており、受注拡大や業績の更なる進展も期待されます。

コミュニケーション・デバイス事業は、国内旅行・インバウンド、工場見学などの需要が堅調であること、また、海外旅行向けも回復基調にあること、更なる成長を予測しております。また、特許取得した新サービスの「WEB版イヤホンガイド®」の提供を開始、秋の観光シーズンに向け収益拡大に貢献するものと期待しております。

最近の業績動向を踏まえ、2025年7月15日発表の2026年5月期の連結業績予想を修正しました。詳細につきましては、本日（2025年10月15日）公表いたしました「業績予想の修正（上方修正）に関するお知らせ」をご参照ください。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2025年5月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2025年8月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,215,270	1,207,512
売掛金	876,131	884,312
商品	91,604	98,630
仕掛品	309	401
その他	177,094	256,395
貸倒引当金	△83	△86
流動資産合計	2,360,327	2,447,164
固定資産		
有形固定資産		
レンタル資産	15,507,225	16,932,550
減価償却累計額	△6,583,481	△6,878,532
レンタル資産(純額)	8,923,744	10,054,018
その他	882,118	901,229
減価償却累計額	△455,059	△479,998
その他(純額)	427,059	421,231
有形固定資産合計	9,350,803	10,475,249
無形固定資産		
その他	100,493	92,081
無形固定資産合計	100,493	92,081
投資その他の資産		
差入保証金	218,191	218,562
その他	335,146	350,875
貸倒引当金	△100	△86
投資その他の資産合計	553,237	569,351
固定資産合計	10,004,534	11,136,682
資産合計	12,364,861	13,583,846
負債の部		
流動負債		
買掛金	251,288	198,644
短期借入金	-	280,000
1年内返済予定の長期借入金	2,944,852	3,293,134
未払法人税等	172,669	100,556
賞与引当金	-	47,080
その他	760,952	874,103
流動負債合計	4,129,762	4,793,519
固定負債		
長期借入金	4,673,337	5,268,342
資産除去債務	131,435	140,818
その他	52,083	50,123
固定負債合計	4,856,856	5,459,283
負債合計	8,986,618	10,252,803

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2025年5月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2025年8月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	533,452	533,452
資本剰余金	626,485	626,485
利益剰余金	2,337,338	2,290,139
自己株式	△119,086	△119,086
株主資本合計	3,378,189	3,330,990
新株予約権	53	53
純資産合計	3,378,242	3,331,043
負債純資産合計	12,364,861	13,583,846

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第1四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自2024年6月1日 至2024年8月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自2025年6月1日 至2025年8月31日)
売上高	1,811,191	2,382,315
売上原価	1,086,328	1,417,671
売上総利益	724,862	964,644
販売費及び一般管理費		
給料及び手当	207,758	223,123
賞与引当金繰入額	36,578	37,074
退職給付費用	8,107	8,497
地代家賃	69,579	77,667
その他	261,766	295,978
販売費及び一般管理費合計	583,788	642,341
営業利益	141,074	322,302
営業外収益		
受取利息	41	501
為替差益	-	224
雑収入	395	57
営業外収益合計	436	783
営業外費用		
支払利息	12,160	17,977
為替差損	1,471	-
雑損失	76	369
営業外費用合計	13,708	18,347
経常利益	127,802	304,739
特別利益		
固定資産売却益	29	-
特別利益合計	29	-
特別損失		
固定資産除却損	0	-
特別損失合計	0	-
税金等調整前四半期純利益	127,832	304,739
法人税、住民税及び事業税	18,783	90,154
法人税等調整額	23,821	9,535
法人税等合計	42,604	99,689
四半期純利益	85,227	205,049
親会社株主に帰属する四半期純利益	85,227	205,049

四半期連結包括利益計算書

第1四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2024年6月1日 至 2024年8月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2025年6月1日 至 2025年8月31日)
四半期純利益	85,227	205,049
その他の包括利益		
四半期包括利益	85,227	205,049
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	85,227	205,049

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第1四半期連結累計期間(自2024年6月1日至2024年8月31日)

1 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント				合計	調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	IT サブスクリ プション 事業	ITAD 事業	コミュニケ ーション・ デバイス 事業	計			
売上高							
外部顧客への売上高	1,306,786	445,768	58,635	1,811,191	1,811,191	—	1,811,191
セグメント間の内部 売上高又は振替高	20,815	—	378	21,194	21,194	△21,194	—
計	1,327,601	445,768	59,014	1,832,385	1,832,385	△21,194	1,811,191
セグメント利益	160,585	137,339	6,274	304,199	304,199	△163,125	141,074

(注) 1. セグメント利益の調整額△163,125千円は、主に報告セグメントに配分していない全社費用であります。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない管理部門に係る費用であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

II 当第1四半期連結累計期間(自2025年6月1日至2025年8月31日)

1 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント				合計	調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	IT サブスクリ プション 事業	ITAD 事業	コミュニケ ーション・ デバイス 事業	計			
売上高							
外部顧客への売上高	1,659,366	654,701	68,247	2,382,315	2,382,315	—	2,382,315
セグメント間の内部 売上高又は振替高	58,772	—	186	58,959	58,959	△58,959	—
計	1,718,139	654,701	68,434	2,441,275	2,441,275	△58,959	2,382,315
セグメント利益	225,261	275,815	9,044	510,121	510,121	△187,818	322,302

(注) 1. セグメント利益の調整額△187,818千円は、主に報告セグメントに配分していない全社費用であります。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない管理部門に係る費用であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

(キャッシュ・フロー計算書に関する注記)

当第1四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第1四半期連結累計期間に係る減価償却費（無形固定資産に係る償却費を含む。）は、次のとおりであります。

	前第1四半期連結累計期間 (自 2024年6月1日 至 2024年8月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2025年6月1日 至 2025年8月31日)
減価償却費	648,762千円	826,514千円

(重要な後発事象)

該当事項はありません。